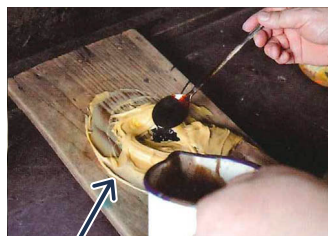


細かい柄も得意とする染色方法で、淡い色合いも染められます。  
裏に色が透けるのを応用し、初の試みとして両面違う柄も染上げました。色と色の重なりを面白さを楽しめる新感覚のゆかたです。

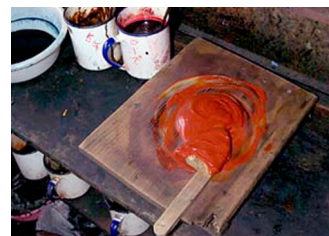
## 1 色調合

米ぬか・赤ぬか・白ぬかをベースにした糊の中に染料を入れ調合 **A** **B**  
(ぬかは防染力も強く環境にもやさしい)

長年の経験と勘のいる工程である



**A** 糊に染料を加え



**B** 混ぜる

## 2 地張り

13メートルの回転台(4面)に白生地を張る **C**

この際、布目がまっすぐかどうかで仕上がりに影響が出てしまう為、細心の注意が必要となる



**C** 台が回転します

## 3 型付け

スクリーン型にスケージを使って色糊を捺染する **D**

柄の糊置きとしごき(無地染)がある  
両面染は柄が重なって出るので、組み合わせで様々な柄が染め上がる



**D** 型のつなぎ目が職人技

## 4 めれ蒸し

捺染された布をぬれた状態で蒸すことにより、発色がよくなり色も定着する

板に糊をひくなど、手間はかかるが独自のこだわり



**E** 蒸し機

## 5 水元(みずもと)・干す

水元で糊を落とし、干す

"色"の調子をみながら、乾燥に注意を払い、傾合いをみてとりこむ



染め上がり